

平成 21 年 度

事業報告書

赤十字基本原則宣言

第20回赤十字国際会議は、赤十字活動の基礎である次の基本諸原則を宣言する。

人 道 (Humanity)

赤十字は、戦場において差別なく負傷者に救護を与えたいという願いから生まれ、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減することに、国際的および国内的に努力する。その目的は生命と健康を守り、人間の尊重を確保することにある。赤十字はすべての国民間の相互理解、友情、協力および堅固な平和を助長する。

公 平 (Impartiality)

赤十字は、国籍、人種、宗教、社会的地位または政治上の意見によるいかなる差別をもしない。赤十字はただ苦痛の度合いにしたがって個人を救うことに努め、その場合、もっとも急を要する困苦をまっさきに取り扱う。

中 立 (Neutrality)

すべての人からいつも信頼を受けるために、赤十字は戦闘行為の時いずれの側にも加わることを控え、いかなる場合にも、政治的、人種的、宗教的または思想的性格の紛争には参加しない。

独 立 (Independence)

赤十字は独立である。各国赤十字社は、その国の政府の人道的事業の補助者であり、その国の法律にしたがうが、つねに赤十字の諸原則にしたがって行動できるようその自主性を保たなければならない。

奉 仕 (Voluntary Service)

赤十字は利益を求めない奉仕的救護組織である。

単 一 (Unity)

いかなる国にもただ一つの赤十字しかありえない。赤十字社はすべての人に門戸を開き、その国の全領土にわたって人道的事業を行わなければならない。

世界性 (Universality)

赤十字は世界的機構であり、そのなかにおいてすべての赤十字社は同等の権利を持ち、相互援助の義務を持つ。

(1965年ウィーンで開催された第20回赤十字国際会議議決)

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

は じ め に

日本赤十字社千葉県支部は、赤十字の「人間のいのちと健康・尊厳を守る」ことを基本使命として、平成21年度は“日本一の支部をめざす”中期計画の初年度として、また9月には、新しい赤十字会館での業務をスタートさせるという節目の年度にあって、災害救護事業をはじめ、国際救援活動、医療事業、看護師養成、血液事業、健康・安全のための知識と技術の普及や、赤十字奉仕団の活動と青少年赤十字の活動を推進しました。また、福祉事業として義肢製作所を運営しました。

災害救護事業では、災害救援物資保管のため支部管理の市川市内の保管倉庫を建替えるほか、新たに地区保管倉庫2棟を設置するなど、救護体制の整備を進めました。

国際救援活動では、ネパール青少年育成等支援事業やジンバブエHIV・エイズ対策事業に資金援助を行ったほか、赤十字国際委員会が行うカンボジア地雷犠牲者救援事業に資金援助を、パキスタン北西部における国内紛争救援活動に職員の派遣を行いました。

健康・安全のための知識と技術の普及では、32,000人を超える受講者に救急法等の5つの講習を実施しました。

医療事業では、成田赤十字病院が県北総地域の中核病院として、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院及び地域医療支援病院等多くの指定を受け、地域に密着した医療事業を積極的に展開するとともに、5月には国内初の新型インフルエンザ患者への対応や航空機乱気流事故患者の受入れを行いました。

血液事業については、関係法令を遵守し、採血事業者及び医薬品製造販売業者の責務である血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るとともに、県民の理解と協力のもと、成分献血・400mL献血を重点に、県・市町村及び献血推進団体等との連携により、献血者の確保に努めました。

平成21年9月から供用を開始した新しい千葉県赤十字会館は、災害救護活動の拠点機能を充実させるとともに、採血・供給の基地機能を一新し、さらに赤十字奉仕団や青少年赤十字の交流や研修会、救急法等の講習会に活発に利用されています。一階には“ギャラリー糸杉”と名付けた展示スペースを設け、赤十字の歴史や活動、国際人道法について広報・啓発しています。新会館には、県外も含め、1,000名を超える見学者が訪れるなど赤十字の情報発信の場としての役割を果たしています。

また会館落成を記念して、赤十字奉仕団・青少年赤十字・赤十字有功会婦人部の共同企画・運営で「赤十字のひろば」が開催され、多くの一般市民の来場を得て赤十字を紹介し、知っていただく良い機会となりました。

平成22年6月

日本赤十字社千葉県支部



千葉県支部の事業・活動。。。この1年（平成21年度）

義援・救援金の受付 15,693,422円

（被災地の日赤県支部や日赤本社を通して、被災者の救援に）

- ・国内義援金
- ・NHK海外たすけあい救援金等

人間のいのちと健康・尊厳を守るために

青少年赤十字活動に 27,103,770円

- ・新たに9校(園)を加え、213校(園)で活動展開
- ・新型インフルエンザの予防啓発を一齐に実施
- ・思いやりの心を行動に移すための指導者(教師)やメンバー(生徒)の研修
- ・佐賀県、福井県などへ代表を派遣し学習、交流

赤十字奉仕団やボランティア活動に 29,794,742円

- ・防災活動や献血推進、救急法等の普及
- ・ボランティアリーダーの養成
- ・地域の高齢者や子育て支援の活動
- ・青少年赤十字の学校の取組への協力、連携
- ・5カ所で「赤十字のつどい」を開催し赤十字の広報

赤十字精神や社旨の普及、広報活動に 83,687,533円

- ・“いのちを救う、力を合わせよう”のキャンペーンや広報活動を全県下で展開
- ・402,162人と13,894法人が赤十字社員に加入
- ・赤十字有功会会員ほか県民、企業、団体の皆様からの多額のご寄付

義肢製作所の運営に 41,601,611円

- ・498人の義肢、装具を製作修理

全国的な赤十字事業、活動に (日赤本社へ送納) 83,752,132円

地区区分(市町村)の赤十字事業、活動に (地区区分へ交付) 80,829,283円

看護師養成に 23,334,093円

救急医療機器の整備に 45,547,000円

血液搬送車両整備等に 32,527,500円

成田赤十字病院

- ・入院213,292人、外来303,422人の患者さまの受け入れ
- ・災害医療救護班(12班)DMAT(2チーム)の常備
- ・国内初の新型インフルエンザ患者の受け入れ
- ・パキスタン難民救援要員として看護師を派遣
- ・市民公開講座の開催(8回)

成田赤十字看護専門学校

- ・97名の看護学生の養成

医療施設特別会計
(収益的収入及び支出)

収入 16,358,683,387円
支出 16,816,685,031円
差引額 △ 458,001,644円

千葉県赤十字血液センター

- ・776,323.5単位(200mL換算)の輸血用血液を医療機関に供給
- ・18,538本の血漿分画製剤を供給
- ・244,762人から献血の協力

血液事業特別会計
(収益的収入及び支出)

収入 8,036,669,558円
支出 7,883,734,933円
差引額 152,934,625円



一般会計

歳入 1,752,461,844円
歳出 1,671,385,172円
繰越額 81,076,672円
(注)上記の歳入及び歳出には
海外救援金26,648,344円を含む

皆様からいただいた活動資金

社資総額
6億7千358万1,397円

雑収入等
(補装具製作収入ほか)
7千147万2,815円

昨年度の繰越金
1億712万9,643円

繰り入れ金
(施設整備資金積立等より)
8億7,362万9,645円

災害救護体制の強化に 82,188,228円

- ・救護要員の訓練、研修
- ・防災ボランティアの拡大
- ・市川市内の災害救援物資備蓄倉庫を改築
- ・被災地の画像伝送システム、衛星携帯電話、業務用無線機、救助ボートを整備
- ・地区用倉庫、移動炊飯器を配備



国際救援に (日赤本社が行う、救援活動に参加) 36,804,084円

- ・ネパール青少年の教育環境整備支援
- ・ジンバブエのエイズ対策支援
- ・カンボジアの地雷犠牲者支援
- ・ハイチ地震、スマトラ島沖地震の救援
- ・パキスタン北西部紛争難民支援

健康・安全のための知識と技術の普及に 29,892,965円

- ・32,193人に救急法等5つの講習会を実施
- ・講習指導員の養成(新たに15名)
- ・講習用のAEDトレーナー、人形などの補充

管理業務に 138,623,140円

- ・職員の人件費等
- ・会館の維持、管理
- ・業務用諸雑費、会議費

新赤十字会館の建設に 909,050,747円

- 災害救護活動の拠点
- 赤十字運動の拠点
- ボランティア活動の拠点
- ギャラリーの開設
- 血液センター
- 千葉港出張所の設置



次年度へ繰越 81,076,672円

目 次

第1	災害救護体制の整備	1
1	救護訓練	1
2	災害救護要員の研修	2
3	救護装備等の整備と災害救援物資の備蓄	3
4	火災等被災者への救援物資の配布と見舞金の贈呈	4
5	地域における赤十字防災ボランティア体制の整備	5
6	被災者義援金の募集受付	6
第2	国際救援活動	7
1	国際救援・開発協力	7
2	国際救援金の募集	8
3	国際救援要員の養成	9
第3	医療事業	10
1	病院運営の健全化	11
2	医療提供体制の充実	12
3	患者サービスの向上	13
4	医療社会事業の推進	13
第4	看護師養成事業	16
1	看護師の養成状況	16
2	成田赤十字看護専門学校の運営概況	16
第5	血液事業	21
1	供給状況	21
2	採血状況	22
3	献血者登録制度の推進	22
4	献血啓発活動	22
5	医薬情報活動の推進	23
6	関連事業への協力	23
第6	健康・安全のための知識と技術の普及	24
1	救急法等講習会の開催	24
2	指導体制の強化	27
3	イベント等における臨時救護の実施	27
第7	赤十字奉仕団による活動	28
1	地域に根ざした活動の展開	29
2	ボランティアリーダーの養成	32
3	青少年赤十字との協働活動	33
4	奉仕団活動の広報強化と団員の募集	34
5	赤十字精神の普及と社資募集活動	34
6	赤十字奉仕団活動を推進する会議	35

第8	青少年赤十字の活動	37
1	青少年赤十字活動の充実	37
2	青少年赤十字の加盟促進	42
3	青少年赤十字の広報	42
第9	社会福祉事業の推進（義肢製作所の運営）	43
1	出張相談及び訪問相談	43
2	医療機関との連携協力	43
3	広報活動	44
4	見学者の受入	44
第10	赤十字精神と社旨の普及	45
1	赤十字社員の募集	45
2	高額寄付募集	46
3	有功会の会員による継続した寄付	47
4	チャリティーボックスによる募金活動	47
5	広報活動（赤十字精神の普及）	47
6	地区分区における赤十字活動の実施	50
7	各種会議・研修会の開催	50
第11	事業推進のための会議	52
第12	職員研修	53
第13	千葉県赤十字会館の竣工	54
第14	歳入歳出決算の概要	56
1	一般会計	56
2	医療施設特別会計	58
3	血液事業特別会計	60

第1 災害救護体制の整備

災害発生時に、いち早く医療救護班を被災地に派遣するほか、救援物資の配布や赤十字奉仕団・赤十字防災ボランティア等による救援活動が、円滑に展開できるよう救護・救援体制の整備に取り組んだ。

平成21年9月には、新しい千葉県赤十字会館の竣工に伴い、災害救護活動の拠点機能を充実・強化することができた。更に、市川市内に支部管理の災害救援物資保管倉庫を建て替えし、都市部における救援体制の強化を図った。

大規模災害時における日本赤十字社の広域救護・救援体制の強化を図るため、第2ブロックの9都県支部で検討を進めてきた「初動救護活動マニュアル」を完成させ、共通認識を図るとともに、そのマニュアルに基づき、茨城県を会場とし、超急性期の救護活動を想定した合同訓練を実施した。

隔年で実施している日本赤十字社千葉県支部合同災害救護訓練では、列車事故を想定した救護活動に、職員・赤十字奉仕団や赤十字防災ボランティア等160名余が参加し、克服すべき課題を明らかにした。



1 救護訓練

日本赤十字社千葉県支部・成田赤十字病院・千葉県赤十字血液センターの各職員及び赤十字奉仕団や赤十字防災ボランティアの参加により各種訓練が次のとおり行われた。

行 事 名	期 日	主 催 (会 場)	参 加 者 数
八都県市合同防災訓練 (千葉県会場)	平成21年9月5日～6日	千葉県・山武市・千葉県消防協会 (蓮沼海浜公園 第一駐車場他)	支部22人、病院23人、血液センター3人、看護学生40人、地域奉仕団80人、防災ボランティア723人 計191人
八都県市合同防災訓練 (千葉市会場)	平成21年8月30日 9月1日	千葉市 (千葉市立さつきが丘中学校)	支部17人、病院11人、血液センター3人、地域奉仕団44人、防災ボランティア7人 計82人
日本赤十字社本社関東山 新支部災害救護訓練	平成21年10月1日～2日	日赤茨城県支部 (ひたちなか市 総合運動公園 総合体育館)	支部4人、病院6人、 計10人

行 事 名	期 日	主 催 (会 場)	参 加 者 数
航空機事故消火救難訓練	平成21年11月5日	成田市・国土交通省 ・成田国際空港(株) (成田国際空港)	支部1人、病院19人、 計20人
災害時徒歩帰宅訓練	平成21年12月19日	千葉県 (松戸市役所～ 県立東葛飾高校)	支部2人、地域奉仕団10人、 特殊救護奉仕団7人 計19人
緊急消防援助隊 関東ブロック合同訓練	平成21年11月14日	総務省消防庁 (幕張新都心内 造成地)	支部4人、病院19人 計23人
日本赤十字社千葉県支部 合同災害救護訓練	平成22年2月18日	支部、成田赤十字病 院、血液センター (JR成田駅構内)	支部23人、病院59人、 血液センター2人、防災ボランティア 6人、地域奉仕団35人、看護 学生42人 計167人



2 災害救護要員の研修

成田赤十字病院に常備している救護班12個班及び千葉県赤十字血液センター救護班2個班の研修会を開催するとともに、本社等が主催する各種研修会へ職員を派遣した。

※救護班：医師1名、看護師長1名、看護師2名、薬剤師1名、主事2名の7名編成

行 事 名	期 日	主 催 (会 場)	参 加 者 数
新任救護班要員研修会	平成21年4月16日	千葉県支部 (成田赤十字病院)	支部3人、病院32人、 血液センター2人 計37人
無線従事者第3級陸上 特殊無線技士講習会	平成21年6月2日	関東総合通信局 (千葉県労働者 福祉センター)	支部2人、病院1人、 血液センター1人 計4人

行 事 名	期 日	主 催 (会 場)	参 加 者 数
d ERU運用研修会	平成21年6月30日、 7月7日、14日	千葉県支部 (支部, 成田市内)	支部28人、病院64人、 計92人
日赤DMAT研修会	平成21年6月27日～29日 8月5日～7日	本赤十字社 (看護大学・武蔵野)	支部3人、病院5人、 計 8人
救護看護師研修会	平成21年10月6日～7日	成田赤十字病院	病院19人 計19人
こころのケア研修会	平成21年11月10日、 12月1日	千葉県支部 (成田赤十字病院)	支部7人、病院20人 計27人
災害看護訓練	平成21年11月12日～13日	千葉県支部 (蓮沼ガーデンハウス)	支部5人、看護学生32人、教 師2人 計39人
こころのケア指導者研修会	平成22年1月27日～29日	日本赤十字社	支部1人、病院1人 計 2人
災害救助研修会	平成22年2月17日～18日	日本赤十字社	支部1人 計 1人



3 救護装備等の整備と災害救援物資の備蓄

(1) 新赤十字会館の竣工による災害救護拠点機能の整備・充実

- ・災害救援倉庫を拡充したほか、非常用自家発電装置の整備、無線室の拡充、非常用井戸の設置などにより、災害救護活動の拠点機能の充実を図った。
- ・被災現場の状況を支部災害対策本部にライブで伝える画像伝送システムを導入し、災害情報収集の迅速化を図った。

(2) 災害救援物資保管倉庫の再整備

災害救援物資の備蓄体制を強化するため、市川市内に支部管理の災害救援物資保管倉庫を建替えし、都市部における救援体制の強化を図った。

(3) 救護用資機材の整備

- ・衛星携帯電話 1台
- ・救助用ボート 1挺
- ・業務用無線機 1台
- ・災害救援物資等の地区保管倉庫 2棟 (地区配備)
- ・災害用移動炊飯器 1基 (")

(4) 災害救援物資の備蓄

救援物資名	年 度 末 在 庫
毛 布	23,628枚
敷 布 (シーツ)	6,610枚
ガーゼケット	7,300枚
日用品セット	5,650セット
バスタオル	6,790枚
収納袋	2,020枚
布団セット	46セット
安眠セット	1,467セット
緊急セット	1,194セット



4 火災等被災者への救援物資の配布と見舞金の贈呈

火災・風水害等による被災者を救援するため、毛布・敷布・日用品セット等を地区分区の協力を得て、被災見舞金と併せて速やかに配布した。

また、入院加療を要する重傷者及び死亡者が発生した場合、見舞金・弔慰金をそれぞれ支給した。

(1) 救援物資配布被害戸数等の状況

	被 災 戸 数	被 災 世 帯 数	被 災 人 数
件 数	340戸	386世帯	812人

(2) 救援物資の配布状況

品名	毛布	敷布	ガーゼケット	日用品セット	バスタオル	収納袋	布団
数	469枚	349枚	351枚	203セット	435枚	335枚	3セット

(3) 被災見舞金・弔慰金贈呈状況

	被災見舞金	見 舞 金	弔 慰 金
件 数	375世帯	5人	34人
金 額	1,875,000円	25,000円	340,000円

5 地域における赤十字防災ボランティア体制の整備

赤十字防災ボランティアの体制を整備するため、ブロック連絡協議会が中心となり、

- ①防災ボランティア一般登録者の拡大
- ②防災ボランティア地区リーダーの養成
- ③防災ボランティア活動の核となる地区協議会の設立

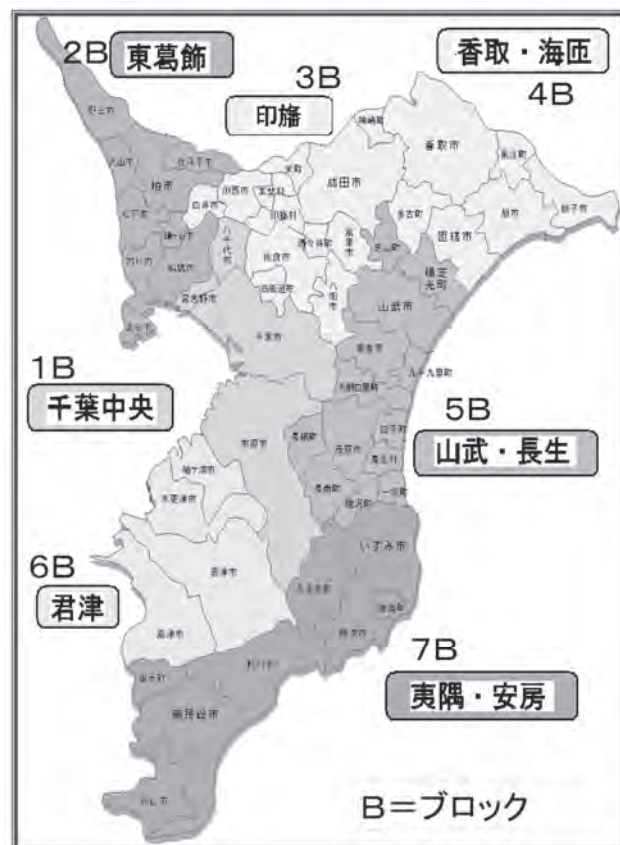
に努めた。

また、防災ボランティアリーダーを中心に研修等を実施した。

(1) 赤十字防災ボランティアの登録状況（平成22年3月31日現在）

	地区協議会	リーダー	地区リーダー	一般登録	合 計
第1ブロック	3地区	13人	35人	54人	102人
第2ブロック	1地区	6人	20人	48人	74人
第3ブロック	2地区	1人	22人	35人	58人
第4ブロック	5地区	3人	50人	66人	119人
第5ブロック	0地区	3人	10人	21人	34人
第6ブロック	4地区	3人	34人	33人	70人
第7ブロック	0地区	1人	6人	12人	19人
県 外	—	0人	1人	5人	6人
合 計	15地区	30人	178人	274人	482人

＜千葉県赤十字防災ボランティア
ブロック図＞



(2) 赤十字防災ボランティア研修会等開催状況

行事名		期日	会場	参加人数
赤十字防災ボランティアリーダー研修会		8月8日～9日	成田メルキュールホテル 成田赤十字病院	16
赤十字防災ボランティア研修会		1月30日	千葉県支部	118
赤十字防災ボランティア地区 リーダーフォローアップ研修会	第1回	5月16日	千葉県支部	68
	第2回	5月27日	千葉県支部	46
	第3回	6月9日	成田中央公民館	17
	第4回	6月21日	成田中央公民館	40
赤十字防災ボランティア地区 リーダー養成講習会	1 B	12月5日、6日	千葉県支部	6
	2 B	12月5日、6日	千葉県支部	6
	4 B	11月14日、15日	東庄町保健福祉総合センター	35
	5 B	12月5日、6日	千葉県支部	6
	6 B	12月12日、13日	袖ヶ浦市民会館	28
赤十字防災ボランティア一般 対象説明会	1 B	10月3日	市原市Youホール	4
		10月18日	習志野市津田沼サンロード	9
		10月24日	美浜区保健福祉センター	7
	2 B	10月18日	習志野市津田沼サンロード	2
		10月31日	千葉県西部防災センター	12
	3 B	6月6日	八街市中央公民館	5
	4 B	5月31日	東庄町保健福祉総合センター	35
		7月4日	銚子市勤労コミュニティセンター	12
		9月13日	匝瑳市民ふれあいセンター	16
		9月26日	銚子市勤労コミュニティセンター	18
		10月18日	旭市干潟公民館	14
	5 B	5月30日	茂原市総合市民センター	50
	6 B	6月28日	木更津総合福祉会館	35
		8月9日	富津公民館	20
	7 B	7月12日	館山コミュニティセンター	5

※参加人数には、スタッフ（リーダー等）を含む。

6 被災者義援金の募集受付

国内の災害に対する義援金を次のとおり受け付け、当該日赤県支部を通し、被災者に配布した。

災 害 件 数	受付件数	受 付 金 額
兵庫県台風第9号災害 他4件	267件	2,312,784円

第2 国際救援活動

平成22年1月に発生したハイチ大地震をはじめ、海外で多発する自然災害による被災者救援のための救援金の募集受付を行った。

また、国際赤十字・赤新月社連盟の保健衛生、開発協力、教育支援等の要請に応え、ネパールやジンバブエに資金援助を、赤十字国際委員会（ICRC）の要請に応え、紛争地域の被災者支援のため、カンボジアに資金援助を行うほか、パキスタンに成田赤十字病院の看護師1名を派遣した。

1 国際救援・開発協力

（1）ネパール青少年育成等支援事業

青少年の教育や保健衛生環境改善のための支援であり、ネパール赤十字社が取り組む、青少年に対する人道的価値観の普及や文房具・スポーツ用品の提供、保健衛生知識や救急法の研修、トイレや保健室など学校の衛生環境の改善事業などに対する日本赤十字社の支援プログラムに参加し、250万円の資金提供を行った。

（2）ジンバブエHIV・エイズ対策支援事業

ジンバブエでは労働人口（15～49歳）の6人に1人がエイズ患者であり、ジンバブエ赤十字社が取り組む、青少年等への感染予防の普及、感染患者やエイズで親を亡くした子どもたちへのカウンセリングなどの事業に対する日本赤十字社の支援プログラムに参加し、250万円の資金提供を行った。

（3）カンボジア地雷犠牲者支援事業

赤十字国際委員会（ICRC）では、カンボジア西部バットアンバン市などにおいて地雷犠牲者のための義肢センターを運営し、義肢や補助具の提供やリハビリテーション事業を行っている。この義肢センターの運営に対する日本赤十字社の支援プログラムに参加し500万円の資金提供を行った。

（4）パキスタン北西部における紛争難民支援事業

パキスタンでは国内紛争による難民が190万人に上っている。赤十字国際委員会（ICRC）ではパキスタン北西部ペシャワールで病院を開設・運営し難民の救援を行っている。ICRCからの日本赤十字社に対するスタッフ派遣要請に応え、国際救援要員として成田赤十字病院の看護師長を派遣した。

- 1) 派遣期間 平成22年3月17日（水）～9月23日（木）6か月間
- 2) 派遣先 パキスタン・イスラム共和国 ICRCペシャワール病院
- 3) 派遣職員 成田赤十字病院 看護師長 松寄 安容
- 4) 業務内容 ICRCペシャワール病院において病棟看護師として勤務

(5) スマトラ島沖地震津波災害復興支援事業フォローアップ調査

平成16年に発生したスマトラ島沖地震津波災害に対する日本赤十字社の復興支援事業の一環として、千葉県支部ではスリランカ赤十字社が取り組んだ水上安全法普及事業に、3年間（平成18～20年）延べ8回にわたり職員を派遣して指導員養成などの技術指導を行った。復興支援事業の完了にあたり日赤本社の要請で、水上安全法の普及支援事業に係る成果の検証のため職員を派遣した。

- 1) 派遣期間 平成21年10月16日（金）～27日（火）
- 2) 派遣先 スリランカ民主社会主義共和国 ガンパハ県・マータラ県・ゴール県
- 3) 派遣職員 千葉県支部 総務課企画広報係長 津田 直人
〃 救護福祉課主事 青木 英憲
- 4) 業務内容 ・養成した指導員の技術評価
・3年間の事業成果の検証
・技術向上のための助言など



2 国際救援金の募集

(1) 救援金の募集（平成22年3月31日現在）

海外の自然災害に対する救援金を次のとおり受け付け、日本赤十字社が行う国際救援活動・事業を通して被災者を救援した。

救 援 金 種	件 数	送 金 額
スマトラ島沖地震救援金	40件	2,393,030円
インド洪水災害救援金	5件	30,248円
フィリピン台風災害救援金	32件	211,192円
ベトナム台風災害救援金	29件	189,544円
サモア地震・津波災害救援金	31件	235,902円
ハイチ地震災害救援金	117件	11,568,237円
チリ地震災害救援金	21件	924,596円
合 計	275件	15,552,749円

(2) 海外たすけあいキャンペーンの実施

NHKとの共催による「海外たすけあいキャンペーン」を12月1日から25日まで実施し、NHK千葉放送局及び千葉県支部において義援金の募集を実施した。

義援金募集実績額 839件 2,031,420円



3 国際救援要員の養成

日本赤十字社及び国際医療救援拠点病院が行う、国際救援・開発協力要員養成の各種研修会に下記のとおり職員を派遣した。

(1) 研修会参加状況

行 事 名	期 日	主 催	参 加 者
危機管理ワークショップ (初級)	平成21年7月1日～3日	日本赤十字社和歌山 医療センター	支部：企画広報係長 津田直人 病院：社会課主事 高橋一彦
プロジェクト・サイクル・ マネージメント研修会 (企画・立案コース)	平成21年6月18日～20日	熊本赤十字病院	病院：薬剤師 井上陽平
国際救援・開発協力要員 (医師・看護師 初級) 研修会	平成21年7月31日 ～8月2日	大阪赤十字病院	病院：整形外科医師 浅香朋美 病院：薬剤師 井上陽平
熱帯医学研修会	平成21年8月21日 ～8月23日	日本赤十字社和歌山 医療センター	病院：整形外科医師 浅香朋美
災害外傷セミナー	平成21年9月26日 ～9月27日	名古屋第二赤十字病院	病院：整形外科医師 浅香朋美

(2) 国際救援・開発協力要員の登録状況

千葉県支部 (義肢製作所含む)	成田赤十字病院	成田赤十字 看護専門学校	計
5人	5人	2人	12人